

(学年) 第1学年、(教科・科目) 国語科

一斉学習

(単元) いろは歌

(本時のねらい)

「いろは歌」は、平安時代中期に成立以降、手習いの際に用いられる手習い言葉の一つとして広く親しまれてきた。「いろは歌」が手習いとして長く親しまれてきた役割は、明治時代以降、「五十音図」に受け継がれる。そこで、「いろは歌」と「五十音図」を比べたり、「いろは歌」を漢字仮名交じり文に直したりすることを通し、「いろは歌」が、「生」に向き合い「生き方」に思いをはせることのできる深い意味をもつことに気づかせたい。さらに、おおよその意味内容を理解した上で、七五調の音律で音読をすることにより、古典の文章に親しませたい。

(ICT活用方法)

デジタル教科書のワーク（音読のレベル）を活用し、繰り返し音読練習させる。

デジタル教科書のワークにある、いろは歌以外の手習い歌を紹介したり、「五十音図」と比較したりすることで、特徴をとらえさせる。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導上の留意点	ICT活用方法
導入 5分	・本時のめあてを知る。	・「いろは歌」について知っていることを発表させ、興味をもたせる。	・「いろは歌」を電子黒板に示す。
展開 40分	・音読をする。 ・特徴と意味を捉える。 ・音読をする。	・デジタル教科書の音読を聞き、七五調であることを捉えさせる。 ・他の手習い歌をデジタル教科書で紹介する。 ・「五十音図」と比較する。漢字をあてはめることで、おおまかな意味を捉えさせる。 ・意味を理解した上で、デジタル教科書を活用し、繰り返し音読させる。	・デジタル教科書を使用する。 ・デジタル教科書を使用する。 ・デジタル教科書を使用する。
まとめ 5分	・本時の振り返りとまとめをする。	・振り返りシートを記入させる。 ・次時の予告をする。	

(授業の様子)



電子黒板で音読練習



電子黒板で意味を解説



グループで音読練習

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

生徒は、デジタル教科書のワーク（音読のレベル）を活用することで、暗唱にも挑戦し、意欲的に繰り返し音読練習をすることができていた。また、電子黒板に本文を示すことで、姿勢よく前を向いて音読することもできた。デジタル教科書の資料（教科書には掲載がないもの）は、生徒の興味や関心を高めたり、知識を広げたりすることに効果的である。「いろは歌」は、1時間だけの授業であったが、事前に一人一台端末で調べ学習をさせることで、さらに興味をもって学ぶことができたであろうと感じた。また、一人一台端末を活用してのグループ学習などを取り入れ、生徒同士が学び合う授業となるよう研究したい。